

慾深き夜をなだめて青葉木菟

野本 京

句会の仲間に誘われ青葉木菟を見に高知城へ吟行。
思いのほか肌寒い夕べ。道中のブティックで上着を購
入。準備の不得手な私にはよくある話。声は聞こえる
が青葉木菟の姿は見えない。我慢の足らないのは私だ
け。時折聞こえるハウハウという声に救われた。

昭和六十年作